

※※2009年4月改訂（第4版）

※2005年5月改訂

貯 法：遮光した気密容器

使用期限：容器に記載

外皮用殺菌消毒剤

# 5%グルクロ液

5% Gluchlo Solution

(クロルヘキシジングルコン酸塩製剤)

日本標準商品分類番号	872619
承認番号	(04AM) 0962
薬価収載	1994年7月
販売開始	1994年7月

## 【禁忌】(次の患者及び部位には使用しないこと)

- (1) クロルヘキシジン製剤に対し過敏症の既往歴のある患者
- (2) 脳, 脊髄, 耳 (内耳, 中耳, 外耳)  
〔聴神経及び中枢神経に対して直接使用した場合は、難聴, 神経障害を来すことがある。〕
- (3) 膣, 膀胱, 口腔等の粘膜面  
〔クロルヘキシジン製剤の上記部位への使用により、ショック症状 (初期症状: 悪心・不快感・冷汗・眩暈・胸内苦悶・呼吸困難・発赤等) の発現が報告されている。〕
- (4) 眼

## ※※【組成・性状】

### 1. 組成

販売名	5%グルクロ液
成分・含量	本剤100mL中, クロルヘキシジングルコン酸塩を5g含有
添加物	ポリオキシエチレンニルフェニルエーテル, 赤色2号, 香料

### 2. 製剤の性状

本剤は赤色澄明な液で、わずかに芳香がある。

本剤は振ると強く泡立つ。

本剤の水溶液 (1→5) のpHは5.5~7.0である。

比重 $d_{20}^{20}$ : 約1.01~1.03

### 【効能又は効果】【用法及び用量】

※※ 本剤は下記の濃度 (クロルヘキシジングルコン酸塩として) に希釈し、水溶液又はエタノール溶液として使用する。

効能・効果	用法・用量	本剤の希釈倍数
手指・皮膚の消毒	0.1~0.5%水溶液	10~50倍希釈
手術部位 (手術野) の皮膚の消毒及び医療機器の消毒	0.1~0.5%水溶液	10~50倍希釈
	0.5%エタノール溶液	10倍希釈
皮膚の創傷部位の消毒及び手術室・病室・家具・器具・物品などの消毒	0.05%水溶液	100倍希釈

### 【使用上の注意】

#### 1. 慎重投与 (次の患者には慎重に投与すること)

- (1) 薬物過敏症の既往歴のある患者
- (2) 喘息等のアレルギー疾患の既往歴, 家族歴のある患者

#### 2. 重要な基本的注意

- (1) ショック等の反応を予測するため、使用に際してはクロルヘキシジン製剤に対する過敏症の既往歴, 薬物過敏体質の有無について十分な問診を行うこと。

(2) 本剤は必ず希釈し、濃度に注意して使用すること。

(3) 創傷部位に使用する希釈水溶液は、調製後必ず滅菌処理すること。

(4) 産婦人科用 (膣・外陰部の消毒等), 泌尿器科用 (膀胱・外性器の消毒等) には使用しないこと。

### 3. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

#### (1) 重大な副作用

ショック (0.1%未満)

ショックがあらわれることがあるので観察を十分に行い、悪心・不快感・冷汗・眩暈・胸内苦悶・呼吸困難・発赤等があらわれた場合には、直ちに使用を中止し、適切な処置を行うこと。

#### (2) その他の副作用

	0.1%未満
過敏症 <sup>注)</sup>	発疹, 蕁麻疹等

注) このような症状があらわれた場合には直ちに使用を中止し、再使用しないこと。

### ※※ 4. 適用上の注意

#### (1) 投与経路

外用にのみ使用すること。

#### (2) 使用時

- 1) 眼に入らないように注意すること。眼に入った場合は直ちによく水洗すること。
- 2) 注射器, カテーテル等の神経や粘膜面に接触する可能性のある器具を本剤で消毒した場合は、滅菌水でよく洗い流した後使用すること。
- 3) 本剤の付着したカテーテルを透析に用いると、透析液の成分により難溶性の塩を生じることがあるので、本剤で消毒したカテーテルは、滅菌水でよく洗い流した後使用すること。
- 4) 本剤のアルコール溶液で術野消毒後、処置の前に乾燥させておくこと。〔電気メス等による発火事故が報告されている。〕

### ※※ 5. その他の注意

クロルヘキシジングルコン酸塩製剤の投与によりショック症状を起こした患者のうち数例について、血清中にクロルヘキシジンに特異的なIgE抗体が検出されたとの報告がある。

## 【薬効薬理】<sup>1) 2)</sup>

### 抗菌作用

- (1) クロルヘキシジグルコン酸塩は広範囲の微生物に作用し、特にグラム陽性菌には低濃度でも迅速な殺菌作用を示す。
- (2) グラム陰性菌には比較的低濃度で殺菌作用を示すが、グラム陽性菌に比べ抗菌力に幅が見られる。グラム陰性菌のうち、Alcaligenes, Pseudomonas, Achromobacter, Flavobacterium, Serratia属等には、まれにクロルヘキシジグルコン酸塩に抵抗する菌株もある。
- (3) 芽胞形成菌の芽胞には効力を示さない。
- (4) 結核菌に対して水溶性では静菌作用を示し、アルコール溶液では迅速な殺菌作用を示す。
- (5) 真菌類の多くに抗菌力を示すが、全般的に細菌類よりも抗菌力は弱い。
- (6) ウイルスに対する効力は確定していない。

## ※※【有効成分に関する理化学的知見】

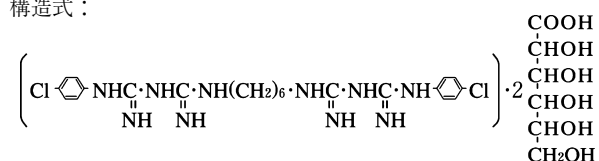
一般名：クロルヘキシジグルコン酸塩  
(Chlorhexidine Gluconate)

化学名：2,4,11,13-Tetraazatetradecane diimidamide, N, N"-bis(4-chlorophenyl)-3, 12-diimino-, di-D-gluconate

分子式：C<sub>22</sub>H<sub>30</sub>Cl<sub>2</sub>N<sub>10</sub> · 2C<sub>6</sub>H<sub>12</sub>O<sub>7</sub>

分子量：897.76

構造式：



性状：クロルヘキシジグルコン酸塩は、通常、水溶液として存在し、その20 W/V%は、無色～微黄色の澄明な液で、においはなく、味は苦い。水又は酢酸(100)と混和する。20 W/V%液1 mLはエタノール(99.5) 5 mL以下又はアセトン3 mL以下と混和するが、溶媒の量を増加するとき白濁する。本品は光によって徐々に着色する。

## ※※【取扱い上の注意】

- 1) 本剤は外用剤であるので、経口投与や注射をしないこと。誤飲した場合には、牛乳、生卵、ゼラチン等を用いて、胃洗浄を行うなど適切な処置を行う。誤って静注した場合には溶血反応を防ぐために、輸血等を行う。
- 2) 血清・膿汁等の有機性物質は殺菌作用を減弱させるので、これらが付着している場合は十分に洗い落としてから使用すること。
- 3) 石けん類は本剤の殺菌作用を弱めるので、石けん分を洗い落としてから使用すること。

- 4) 綿球・ガーゼ等は本剤を吸着するので、これらを希釈液に浸漬して用いる場合には、有効濃度以下にならないように注意すること。
- 5) 本剤の希釈に常水を用いる場合、その中に含まれる硫酸イオン等の濃度により、白色の沈殿を生じることがあるので、希釈水溶液を調製する場合は、精製水を用いることが望ましい。また、本剤の希釈に生理食塩水等を用いる場合、その中に含まれる陰イオンにより難溶性の塩を生成することがあるので、希釈水溶液を調製する場合は、生理食塩水等を用いないこと。
- 6) 手洗い等に使用する本剤の希釈液は、少なくとも毎日新しい溶液と取換えること。
- 7) 本剤の希釈水溶液は安定であるが、高温に長時間保つことは避けること。(高圧蒸気滅菌を行う場合は115℃30分、121℃20分、126℃15分で滅菌処理することができる。)
- 8) 本剤を取扱う容器類は常に清浄なものを使用すること。
- 9) 本剤の希釈水溶液は調整後直ちに使用すること。やむを得ず消毒用綿球等に長時間使用する希釈水溶液は微生物汚染を防止するために、希釈水溶液にアルコールを添加することが望ましい。(エタノールの場合7vol%以上、イソプロパノールの場合4vol%以上になるように添加する。)
- 10) 医療機器類を浸漬消毒(又は保存)する場合は、腐食を防止するために、高濃度希釈液(目安として本剤0.3%以上)を使用し、微生物汚染を防止するために、希釈水溶液にアルコールを添加することが望ましい(アルコール添加量は上記9)と同じ。)
- 11) 本剤に含有される界面活性剤は、希釈した場合でも長期保存の間に接着剤を侵すことがあるため、接着剤を使用したガラス器具等の長期保存には使用しないこと。
- 12) 本剤の付着した白布を次亜塩素酸ナトリウム等の塩素系漂白剤で漂白すると、褐色のシミができることがある。漂白には過炭酸ナトリウム等の酸素系漂白剤が適当である。

## 【包装】

500mL, 18L

## 【参考文献】

- 1) 第十五改正日本薬局方解説書 広川書店
- 2) 日本薬局方医薬品情報 JPDI1996 薬業時報社

## 【文献請求先】

株式会社 三恵薬品 品質管理室  
〒441-8033 愛知県豊橋市入船町21番地  
TEL (0532)45-6136

\* 製造販売元



株式会社 三恵薬品

〒441-8033 愛知県豊橋市入船町21番地